

やまがた酸性雨ネットワークの活動紹介

やまがた酸性雨ネットワーク（会長：柳澤文孝）
○渡邊一史（山形県環境科学センター）

1 はじめに

やまがた酸性雨ネットワークは、県内の酸性雨の状況やその生態系への影響に係る調査研究等を実施している大学等の高等教育機関や公設試験研究機関、行政機関などが広く情報交換を図ることを目的に平成13年7月に設立された。

2 ネットワークの構成

平成24年4月現在、県内の大学等の高等教育機関、公設試験研究機関、市民団体、民間の計量機関および行政機関から、22機関、4個人計37名が参加している。

3 活動の概要

毎年定期的にはやまがた酸性雨ネットワーク会議や交流会等を開催し、知見や研究成果についての情報交換・交流促進を図っている。

さらには環境教育・啓発活動の一環として、酸性雨に関する体験学習会や毎年11月に酸性雨一斉調査を実施している。

以下、酸性雨一斉調査について紹介する。

4 酸性雨一斉調査

(1) 目的

山形県内の各地域の学校等で、県民が直接酸性雨の調査を実施することによって、その学習意欲を高め、身近な環境問題として酸性雨の実態を把握し、地球環境問題としての酸性雨に理解を深めてもらうことを目的として実施している。

(2) 調査期間

毎年11月の1ヶ月間

(3) 調査方法

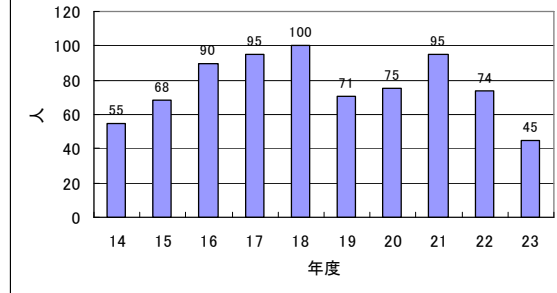
調査は、各参加者がそれぞれ雨水を集め、pHを測定することで行った。測定には、小学生でも簡単に測定できるバックテストを用いた。

降水は、雨水採取装置を調査日の朝に設置し、翌日の朝に回収する方法で、調査期間中に4回を目標として採取を行った。

(4) 調査地点

調査地点数は表1のとおりで、毎年80地点程度で調査を行っている。参加者は個人、学校、企業など幅広く、県内全域での調査を行っている。

表1 酸性雨一斉調査の調査地点数



(5) 結果

全調査地点の平均pHは表2のとおりであり、5.0前後で推移している。また、地域別に見ると、日本海に近い庄内地域で低いpHを示している。

表2 pHの推移(全地点の算術平均値)

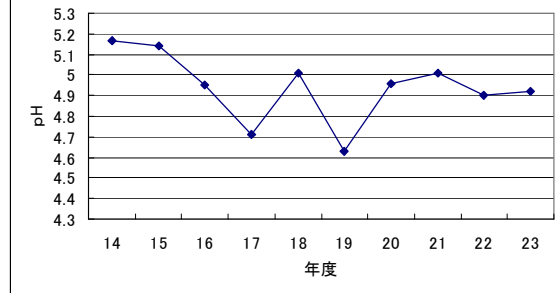
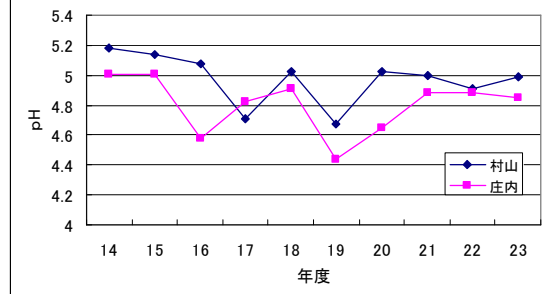


表3 地域ごとのpHの推移



5 今後の活動予定

昨年引き続き、今年も11月に県民の参加を得て酸性雨調査を実施している。

また、県内の酸性雨の現状と今後のモニタリングのあり方など、情報交換に努めていく。